



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2019年04月01日 第913号「週刊五十嵐レポート」

農業やるなら、今！？

ランチェスター経営の1人当たりのデータ(黒字会社)によると、

全業種: (粗利益)801 - (経費)715 = (経常利益)86万円。

全農業: (粗利益)1,028 - (経費)851 = (経常利益)177万円。

農業の方が全業種平均より1人当たりの経常利益が2倍以上ある。不思議だ。農業は儲からないと聞いていた。それがどうしてこんなに高収益なんだろう。ランチェスター経営の師匠でもある竹田陽一代表に聞いてみた。対象は法人。農業生産法人にする所は積極的な所が多い。まだ腑に落ちない。

先日、九条ねぎの「こと京都」の山田敏之社長の話を聴いた。脱サラして父の農家を継ぐ(1995年)。当初いろいろな野菜を生産していたが、「九条ねぎ」一本に絞る(1997年)。市場のセを見学して、高額商品を知る。生鮮野菜だけでは年商1億円は届かないことを悟り、「カットねぎ」の加工に進出(2000年)。業界・客層を「ラーメン屋」に特化し、開拓に成功。売上1億円を突破(2003年)。養鶏事業や菓子事業など多角化をするも失敗。本業に注力。3億円規模の工場に投資。売上は3億円を突破(2006年)。誤表示・偽装の発覚(九条ねぎと言って、京都以外の産地、中国産)(2013年)。偽装等のおかげで本物である九条ねぎがクローズアップされ、注文が急増。売上7億円(2013年)。4億円の工場投資。売上10億円突破(2015年)。生鮮野菜だけではなく、加工品や冷凍品、そしてドレッシングなどの商品を製造・販売を手かげている。いわゆる第6次産業。山田社長はサラリーマン時代、営業マンだったこともあり、九条ねぎの営業に注力した。普通の農家は作るだけ、加工もやらなければ、販売もしない。だから儲からない。生鮮野菜だけだと、自然災害に弱い。加工品や冷凍品があれば、売上高を安定させることができる。

最後に、山田社長に質問してみた、「現在売上13億円。総資産と借入金残はどのくらい?」。山田社長、「総資産は10億円。借入金は9億円」。普通の会社なら経営破綻する。山田社長、「農業だからできるんです。3年据置25年返済。しかも年間の支払利息は350万円。国が応援しているんです。攻める(市場を押さえる)のは今なんです」。なるほど腑に落ちた。

ちょっと
気になる出来事

日経新聞に、定期的に「NEXT1000」の記事が発信されている。日本経済のけん引役と期待される売上100億円以下の中堅上場企業のこと。

1月8日付、2018年1年間で平均時価総額の増加額ランキングは、独自の技術やビジネスモデルを武器に業績を伸ばす企業が上位に。

2月25日付、海外売上高比率5年間の増加幅が大きい企業ランキングは独自の技術やコンテンツ力を持つ地方企業が目立った。戦略を読み解くキーワードは「少量多品種」「ニッチ」。

3月11日付、2018年4~12月期に純利益を増やした企業ランキングは、ニッチ市場で高いシェアを握る企業や独自のビジネスモデルを持つ企業が上位に並んだ。

3月26日付、従業員1人当たりの営業キャッシュフローの直近5年平均では、ニッチ分野で小回りをきかせた製品の改良や開発で変革してきた企業が上位に並んだ。

業績良好のキーワードは「ニッチ市場で1位」、「独自の技術」。



一口メモ
知識

自分の尊厳を守るには

一切の生命に対して、その尊厳を大事にする人が、自分の尊厳を守ることになるのです。

他の生命の尊厳を踏みにじる人は、自分の尊厳を守れません。他を生かすことが、生きるということなのです。

幸福になりたい人は、すべての生命に対して幸福を与えなければいけないのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時~6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

Tel.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

